

1 社会・治安情勢

(1) 国家の統治及び社会の安寧秩序を著しく不安定にするような戦闘，暴動，凶悪犯罪等は認められず，昨年5月にハノイ市内を含むベトナム全土において大規模な反中国抗議行動が取り組まれたものの，その後同様の抗議行動の発生は確認されていない。

ただし，中国の石油掘削リグが南シナ海を通過するとの報道や中国が南沙諸島の島を埋め立てている等の各種南シナ海関連の報道も為されており，今後の情勢如何では，再び中国に対して同様の抗議活動が行われる可能性も否定出来ず，情勢には引き続き注意を要する必要がある。

(2) 当地の対日感情を損なう情報には特段接していない。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 日常，凶悪事件を含む犯罪の発生が報じられない日はなく，一般犯罪及び凶悪犯罪ともに断続的に発生していることが認められる。また，薬物密輸・密売事件の検挙報道が増えており，大麻や合成麻薬を始めとした薬物がベトナム国内に蔓延してきていることが窺える。

(2) 邦人被害事案

ア ハーティン省を訪れていた邦人観光客が，市内散策中に複数人のベトナム人と口論となり、頭部等を殴打される傷害事件が発生している。また、この際に所持していた現金等も盗難される窃盗被害も発生している。

イ ハノイを訪れていた邦人観光客2名が，ホアンキム湖周辺でベンチに座って休憩中、一眼レフカメラやレンズ、スマートフォン等を盗まれる置き引き被害が発生している。

ウ ハノイを訪れていた邦人観光客が，ホアンキム湖周辺を散策中、肩から掛けていたポーチのファスナーを開けられ、中からスマートフォン財布を盗まれるスリの被害が発生している。

エ ハノイ在留邦人宅（一軒家）において，夜間泥棒が侵入し、現金やスマートフォン、デジタルカメラなどを盗まれる忍び込み被害が発生している。当地警察の鑑識活動結果から、犯人は2階バルコニー部分から侵入したものと思料されている。

(3) 邦人以外の被害事案

ア 1月中旬，ハノイ市内ミーディン地区に駐車中のタクシーに乗車したベトナム人の若者が，タクシーを細い路地に導いた後、ナイフで運転手を脅し現金を要求する事件が発生している。今年に入って2か月の間に、タインスアン地区において同様の事件が4件発生しており、ハノイ市警は若年麻薬中毒者が犯人であり、より凶悪化しているとみて捜査している。

イ 1月中旬，ハノイ市内ホアンキム区のホテルにおいて、カナダ人宿泊客の荷

物から現金、タブレット端末、カメラ等が盗まれる窃盗事件が発生している。犯人は、ペルー国籍の男性二人組で、盗んだ物を転売しようとしたところ警察に検挙されている。

ウ テト期間中、殴り合いによって負傷し入院した患者数は約5,400人に上り、そのうち19人が死亡した。殴り合いが原因で入院した患者数が最も多かったのは、ホーチミン市であり、その他にアンザン省、ドンタップ省、ドンナイ省、キエンザン省など南部の都市や省が多かった。

3 テロ・爆弾事件等発生状況

(1) テロ事件の発生については認知していない。

(2) 爆弾事件については、1月下旬早朝ハノイ市内のホンハック通りに駐車していた車両がいきなり爆発する事案が発生している。死傷者はおらず、警察が車両を持ち返り原因を捜査中である。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人の誘拐・脅迫事件の発生は認知していない。

5 日本企業の安全に係わる諸問題

日本企業に対する事件やストライキの発生件数（当館把握数）は0件であった。